

福島県公立学校退職校長会

田村支部会報

## たむら

第32号

発行者 菅野 正秀  
菅野 正秀

## 学校教育の変化への対応

田村地区小中学校長連絡会

会長 菅野 学



退職校長会の皆様には、日頃より小中学校長会に対し、ご支援とご助言を賜り、衷心より御礼申し上げます。

さて、現在の学校教育は大きな変革期を迎えております。(学習指導要領の改訂の時期になると毎言われているように感じますが・・・)これまで学校教育の中で行われてきた「当たり前」のことが、そうでなくなっていることが多々あります。特に、不登校への対応方法、授業のデジタル化、働き方改革などは、喫緊の課題となっております。待ったなしで対応しなければならぬこととなっています。校長として、これらのことに對する認識を常に「アップデート」しなければならぬ状況なのですが、次から次へと出される情報に追いついていないのが現状です。

特に不登校への対応については、「誰一人取り残されない学びの保障」として、学びの多様化学校等について論じられ、また、今年度末の高校入試は、報道でもありましたように、出欠の記録を選抜資料としないこととなりました。

AIの活用についても、十月二十二日、香川県高松市で行われ全国中学校長研修会(全日中)でも、AIが東大理Ⅲの入試問題を正答した、という講話を聞き、活用の有無より、いかに活用していくか、ということに議論の転換が必要であることを感じました。

働き方改革及び部活動の地域展開などについても方向性は示されているものの、取り組み方に校種差、個人差があり、各校において苦勞しながら「折り合い」を付けながら進めております。

このように、学校単独で解消できない課題が多く、地区校長会としても情報交換しながら知恵を出し合って進めているところです。

退職校長会の皆様には、これからも学校の取組を俯瞰的に見ていただきながら、ご助言を賜り、この難局を乗り切るお知恵をご教示いただければ幸いです。今後ともご支援とご指導をお願い申しあげます。

## 紅葉めぐり三会津路

研修旅行

十一月八日(土)秋晴れの下、研修旅行「紅葉めぐり三会津路」が催行されました。

最初の目的地は猪苗代町の土津神社。保科正之公が会津藩を見守るために自ら定められた墓地だそう。鮮やかなイロハモミジの紅葉と青空のコントラストは息を飲むほど美しく見事でした。

次は、大自然に囲まれ悠々と立ち並ぶ白壁の酒蔵が美しい磐梯町の榮川酒造。酒蔵見学とお酒の試飲を楽しみました。

昼食は会津若松市内で、美味しい日本酒と会津の郷土料理を堪能しながらの楽しい懇親の時間となりました。

最後は喜多方市の新宮熊野神社。



見所の長床前の大イチョウは、残念ながら色づき始めたばかりでした。宝物殿の文化財を見学し、熊野三社を参

拝してこの日の紅葉めぐりを終えました。役員の方々の丁寧な準備と細やかな心配りのお陰で、バス旅ならではの楽しさを味わわせて頂きました。心から感謝いたします。

## 現職校長との交流会

九月五日(金)

迎賓館「辰巳屋」において、現職校長と退職校長との交流会が行われました。今回は、現職者十七名、退職者十九名の三十六名の参加をいただきました。



退職校長にとってはかつて勤務した学校の様子や現在の学校教育事情を知る楽しい場です。各テーブルとも時間の経過と共に話が盛り上がり楽しいひとときとなりました。

他地区から赴任された新任の校長先生にとつては、先輩から校長としての心得や地域の文化や特性等様々なことを学ぶ良い機会になったのではないのでしょうか。

準備を進めてくださった庶務の皆様ご苦勞様でした。



# 発表報告 「田村支部の課題分析と 問題解決への提案」

発表担当 安瀬 一正

六月十日開催の県大会において、本支部が発表の機会をいただきました。その概要を報告いたします。

田村支部は、「会員の交流を軸とした持続可能な会活動」を目指し、現状と課題を分析した。社会環境の変化や支部が抱える問題に対応するため、発表準備委員会を組織して検討を進めてきた。

## (一) 課題の認識

まず、退職校長を取り巻く環境の変化として、少子高齢化、役職定年制の導入、年金支給開始年齢の引き上げによる経済的な不安が挙げられた。また、田村支部の課題として、会員数の減少、活動参加者の限定化、交流機会の減少、そして社会貢献活動の活性化の必要性が認識されている。

現状調査で

は、定年後六十四歳までの会員の就労率が一〇〇%であり、六十九歳までの約三分の二が就労して



おり、全国と同様である。

現職校長二十三名へのアンケートでは、四十八%が役職定年への不安を抱えており、「教員としてのブランク」「体力面」「再就職の情報不足」「年金までの経済的フオー」が主な理由だった。退職校長会への入会については、六十七%が「入会するつもり」、三十三%が「まだ分からない」と回答しており、会の存在意義をアピールする必要性が浮き彫りになった。

さらに、会員の高齢化による活動の困難や、少子化に伴う学校数・会員数の減少も深刻な問題になっている。過去二十一年間で学校数は五十二校から二十三校に、さらに会員数も減少している。

## (二) 活性化に向けた取り組み

これらの課題を踏まえ、田村支部は以下の三つの柱で活動の活性化を図る。

### ア 組織運営の見直し

#### (ア) 専門部の設置

研修部、広報部、調査部の三つを設け、多くの会員が「所属意識」と「やりがい」を持って活動できるよう分担する。専門部員からは、メンバーが増えたことで意見集約がしやすくなったとの声があった。

#### (イ) 会費徴収・文書配布方法

振込から各方可部理事による現金徴収

を検討し、訪問を通じて会員と直接交流し、所属意識を高めることを目指す。会報等の文書も同様に手渡しを検討する。

### (ウ) 情報共有のデジタル化

広範囲に居住する会員間の連絡を密にするため、スマートフォンなどを活用した情報共有のデジタル化を進める。

### イ 交流（親睦）活動の工夫

#### (ア) 会報「たむら」の活用

学校現場の現状、会員の近況、活動状況などを掲載し、会員間の交流を活性化させる。

#### (イ) 研修旅行の継続

交流の貴重な機会として継続するが、参加者の確保や費用面が課題であり、研修部で改善策を検討する。

#### (ウ) 「してみたい交流活動」

会員の趣味や興味を活かした交流活動を提案し、有志で集まれる仕組みを導入する。

### ウ 社会貢献活動の活性化

#### (ア) 地域連携の強化

定年延長などで社会貢献に専念できる年齢が上がっている現状を考慮し、地域学校協働本部や学校運営協議会と連携して学校支援のニーズを把握。不登校生徒への学習支援、教科指導補助、部活動の見守りなど、現職校長が求めている支援に応えることで、会員の「生きがい」

創出につなげる。

## (三) まとめ

今回の発表準備を通じて、仲間と課題や解決策を話し合うこと自体が、会員のやりがいにつながることが実感できた。

今後は、「みんな」で「できること」から「合言葉」に、「Eも活用しながら、会員の「やりがい」「生きがい」創出を目指していく。

.....

大会に参加した各支部代表の中には、発表内容に「同感」し、うなずきながら聞く姿も多く見られました。同様の課題を抱える支部が多く、活動のあり方を改めて見つめ直す機会としていただけたのではないかと感じます。

本支部でも今回の提案について、可能性を検討しつつ「できること」から活動を進めています。ぜひ皆様が、この課題解決に参加され、「やりがい」「生きがい」を感じ得られますことを願っています。





## 会員の近況

～輝きびと～

### その後の私

佐久間 眞

退職して二十七年が過ぎました。その間、お世話になった地域へ恩返しをするつもりで、いくつかの役を引き受けました。主な役職は町内会長、民政児童委員、歴史民俗資料館長、明るい選挙推進委員長、三春町文化団体連絡協議会長等です。

個人的な趣味としては、現職の頃から入会していた合唱の団体ミハルコーラスの活動に参加していることです。今年の演奏会は、「国際シニア合唱祭」「たむら合唱祭」「戦後八十周年祈念事業」「福島県南混声合唱祭」「まほらコーラスフェスティバル」「グルッペ・ムシケ音楽祭」の六回でした。合唱はみんなの心を一つにすることがで



きる楽しい取り組みであり、私にとっては元気の源になっています。これからも松崎洋子先生のご指導をいただきながら、明るく楽しく歌い続けるつもりです。

### 早いもので退職して十年

佐久間 金治

天気の良い日には、小町ダムの湖畔を歩くことにしています。約五十分で五千歩弱の道のりですが、とてもよい散歩コースなのですが、殆ど人に出会うことはありません。

### 季節

毎に咲く花や草木等をスマホで撮



るのを楽しんでます。春にはしだれ桜や山桜、夏にはニッコウキスゲやヤマユリが咲き、秋には楓の紅葉やどんぐり、冬にはカルガモやマガモが見られます。白鳥が飛来することもあります。珍しいキツネノカミソリという剃刀の形の赤い花も見つけました。驚いたのは、ニホンカモシカに出会ったことです。

ゆっくり周りを眺めながら歩くことが、健康な心と身体づくりには何よりだと思っています。

## 受賞への感謝

根内 喜代重

拙著「未来をつくる小学生 震災が問いかけた都路の学校と地域」が、第四十八回福島民報出版文化賞正賞をいただきました。子供たちや教職員、地域や関係者の皆さんの実践があつてこそその受賞であり、共に喜びを分かち合いたいと思います。「易しい言葉を使いながらも、当時の空気感や携わった人々の思いを切々と表現している」などの書評をいただき、身に余る光栄です。執筆を顧みれば、文章構成の練り直しや語彙探索の連続で、思うようにペンが進まないことは、時に苦悩でもありましたが、読者の捉えを想像しながら、言葉を選び、紡ぐ作業は、言葉の持つ新しい意味の発見にも繋がり、モチベーションが高まりました。本受賞への感謝とともに、子供たちが切り拓く未来に期待したいと思います。



正賞 レリーフ  
「笛を吹くピエロ」

拓く未来に期待したいと思います。

定年退職後三年間、再任用で初任研担当教員として勤務させていただきました。四つの学校を日替わりで勤務するのは意外と疲れるものです。本年四月からは学校現場を離れ自宅でのんびり、ゆったり生活を送っております。

退職後はあれもしたい、これもやりたいと夢見ながらいたのですが、いざ退職してみるとやりたいことを思うようにできていません。退職後の毎日の日課は主に朝夕の犬の散歩、メジャーリーグテレビ観戦、家や畑周りの草刈り、そして野菜づくりです。野菜づくりは高齢の母親を手伝いながら一人では何もできません。来年は少しでも自分で収穫できるようにしたいと思っています。

退職したらぜひやってみたいと思っていたことの一つに旅行があります。各地の名所を巡る旅をしてみたいのです。できたらメジャーリーグを現地で見たいです。



おめでとうございます

賀寿 浮内 彰 様  
米寿 大谷 明弘 様  
米寿 渡辺 忠次 様  
喜寿 渡邊 勝雄 様

※渡辺忠次先生から寄稿をいただきました。

「管野正秀支部長さんにわざわざお祝いに来ていただき、感謝とともに退職後の人生を振り返る一つの機会になりました。」

六十代は、国内外を庶民の生活を中心に自分の目で見てみようという妻と二人ですべての都道府県と二十数か国を巡った。囲碁クラブへ入会し、二十数年楽しませていただいた。五級での入会が二段になった。体調に波があったため、健康づくりを兼ねて畑作に汗を流したり、友人と山菜取りに出かけたりした。八十歳になり、運転免許証を返納した。買い物や通院は常にタクシー利用で、生活は大変不便になったが、ニュースで高齢者の悲惨な事故を目にすると、これで良かったかなとも思う。現在の生活は、一時間以上かけて新聞を読み、テレ



を

ビ視聴は三時間ほどであろうか。少しばかりの畑作や除草を休み休みやっている。老花防止のために多くの人と接しなさいと言われるが、外に出るのが難しくなってきた。

米寿のお祝いありがとうございます。日々元気に生活したいと思っています。」

交流活動報告



支部活動の活性化に向けた取組として、会員の趣味や興味を活かした交流活動を昨年度から検討してきました。現在の希望者数から実施可能な次の活動を、無理のない範囲で進めて行ければと思います。

参加してみたい交流活動があれば、事務局または文書配付理事へ申し出てください。

田村支部交流活動  
テニス、ゴルフ、麻雀、  
釣り、ウォーキング

十月二十五日(土)ウォーキングとして都路町観光協会主催の行司ヶ滝秋の探勝会に参加しました。雨上がりの曇り空でしたが散策するのには快適な気候でした。最初に現れる女滝は遊歩道から覗き



込むと深い谷底に足下がすくむようでしたがとてもきれいな渓谷でした。

した。更に遊歩道を進み急な階段を降りていくと男滝が現れます。前日の雨の影響もあって水量も多く雄大な景色でした。マイナスイオンをたっぷり浴び心身共にリフレッシュすることが出来ました。帰りは登りの急な階段、普段運動していない者にとってはかなりきつい登りでしたが、ほどよい疲労感を味わうことが出来ました。この日は、これから訪れる方のために小滝沢地区の方々等が環境整備奉仕作業を行っており、豚汁やおにぎりをごちそうしていただきました。

十一月十五日(土)宇津峰カントリークラブにおいて第一回のゴルフコンペを開催いたしました。

当日は、朝の冷え込みはありま

したが、穏やかな晴天に恵まれ、和気あいあいとプレーすることが



出来ました。久しぶりのプレーでバンカーなど苦戦する場面もありましたが好プレーが随所に見られました。

今回は四名の参加でしたが、次回からは複数組での大会となることを期待しております。

ご冥福を

お祈り申し上げます

浮内 彰 様 (九十五歳)

令和七年十月九日

佐久間末雄 様 (九十六歳)

令和七年十月十六日

室井 誠三 様 (九十二歳)

令和七年十月二十九日

編集後記

会員の皆様よりご寄稿いただき無事第三十二号を発行することが出来ました。皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。

前評判が良くなかった大阪万博でしたが、予想に反し、多くの入場者があり大成功に終わりました。

女性初の総理大臣となった高市総理、内閣支持率が歴代二位とすこぶる評判が良いようです。物価高で苦しむ、我々年金生活者の暮らしが少しでも良くなる政治を行い、予想に反し、支持率を大きく下げないよう期待しております。

良いお年をお迎えください。(M)

